

取組名称	大学生のチカラで地域を元気に！ 再生可能エネルギーの活用からつなげるローカルイノベーション			団体設立後の経過年数	12年
応募取組主体名称	龍谷大学政策学部洲本プロジェクト	活動地域	兵庫県洲本市	応募取組の活動年数	12年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門 (概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください) / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への思いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨	<p>龍谷大学政策学部洲本プロジェクト（以下、洲本プロジェクト）では、毎年20名以上の大学生が淡路島の洲本市に通い続けています。地域の人や地元企業、市役所の皆さんと連携しながら、11年間にわたって活動してきました。市内1ヶ所に小水力発電システムの構築、2ヶ所にフロートソーラー発電所を設置し、地域貢献型再生可能エネルギー事業を推進してきました。その売電利益は、地域課題の解決に資する活動の費用として充填されています。</p>
実績の要旨	<p>洲本プロジェクト11年間の活動に関わった学生数は、延べ310名になりました。卒業生の島内移住をはじめ関係人口を増やし、大学生が地域の担い手として、課題解決やローカルビジネスの創発に貢献しています。小規模集落である千草竹原では、小水力発電システムの構築や維持管理、イベント開催、古民家の改修等を通して、集落をエンパワーメントしてきました。洲本市の取り組みは、地域貢献型再生可能エネルギー事業と域学連携事業の先進地域として、国内外から注目され始めています。</p>

取組評価の要旨	環境への貢献	既存の水路を活用した小水力発電システムの構築、農業用ため池を活用したフロートソーラー発電所とその売電利益による地域再生活動
	社会・経済への貢献	小規模集落における空き家の改修や地域の拠点施設の整備、放置竹林の課題に取り組むなど、ローカルビジネスを創出するための挑戦
	地域資源の活用	農業との共存を図りながら、地元の河川や農業用ため池などの地域資源を活用
	普及・汎用性	特定の地域に限定せず、洲本市内のさまざまな場所で大学生ができることを意識しながら積極的に展開
	革新・ユニーク性	売電利益を市内に還元する地域貢献型再生可能エネルギー事業、発電した電力を地域で使う小水力発電システム、大学生による恒常的な地域再生活動
	継続性	洲本プロジェクトは龍谷大学政策学部の科目の一つであり、継続可能な実施体制を構築

展望の要旨	地域再生を担う人材として活動し、地域課題の解決にとどまらず、地域の人と連携しながらローカルビジネスの創出・育成をめざす
-------	---